

令和 7 年 7 月 22 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県全体では原木生産は順調であるが、県西地域で現場の移動と保育作業が重なり生産・入荷量とも少なめ。国有林材の入荷も始まり入荷量は昨年に比べ多い。スギ材は柱材で引き合いが強く保合で推移。中目材では虫害の少ないものは強含み。3.0m 柱材で 14,000 円台後半、4.0m 中目材は 14,000 円台半ば。ヒノキ材は全般的に保合が続いている。3.0m 柱材で 23,000 円台半ば、4.0m 中目材は 23,000 円台後半で推移。

群馬県では原木の出材は減少し、良材の集荷が困難になっている。虫害の発生により原木価格は下落傾向。製材工場の原木在庫はスギ、ヒノキともに 80%の在庫だが、ヒノキ 4.0m 角、105 角用の原木が少ない。受注は土木と大型物件が重なり順調。製品在庫は間柱、仮筋等、側製品は依然少ない。角類は均衡。ヒノキ 4m90 角・105 角 KD は、原木不足のため少ない。全体的な在庫は 70%程度で例年の 7 月よりは順調である。

2. 米材

北米産地では、事前オーダーに合わせた形で伐採、出材されており、日本向け輸出原木が過剰に伐採される恐れはない。今年は山火事の時期が早く、事前の規制や伐採制限が多くなるとの見方多い。港頭在庫も日本向けに過剰感や不足感は少ない。ただし、カナダ BC 州では全体の伐採量が例年の 1/3～1/5 程度と少なく、カナダ国内向けの原木在庫はかなり少なく需要も弱い。米国内の原木価格は強含みで、カナダの輸出価格も連動して強含み。米マツ IS 級並の対日輸出価格(推定)は前月比\$20 高の\$1,000/千 SCR で決着した模様。米国ワシントン州の対日向け米マツ小角工場は火事により稼働が止まっている。日本向けに月間約 3,000 m³を輸出していたので、今後内外に少なからず影響が出るものと予想される。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(7/7)は\$428/M で 6 月初めに比べ 1.4%の下落。

5 月の原木入荷は 121 千 m³と前月並み、1～5 月累計では 625 千 m³ (前年同期比 0.4%減)、うち米国産が 419 千 m³ (同 11%減)、カナダ産は 206 千 m³ (同 32%増)と対照的。出荷は 133 千 m³、1～5 月累計は 676 千 m³ (前年同期比 8%増)で出荷超。在庫は 125 千 m³、在庫率 0.95 ヲ月とさらに減少。東京木材埠頭の 6 月米材製品入荷は 13.3 千 m³ (前月比 37.1%増)、出荷は 9.5 千 m³ (同 6.0%

増)、在庫は 27.3 千 m^3 (同 16.0%増)。

※6 月号の訂正：4 月の原木の入荷は 121 千 m^3 、在庫率は 1.04 ヲ月

3. 欧州材

第 3・四半期の契約価格が交渉中であるが、ユーロ高により 170 円/€を超える円安となり、集成材コストは 80,000 円台に突入し国内集成材よりも割高になってきた。産地側は原木価格の上昇やインフレにより工場経費増のため量を追わない姿勢で日本側の希望値には応じない様子。国内の間柱類は輸入が増え、不足感はなくなった。集成柱・集成梁の輸入コスト高により、国内メーカーではさらに値上げの機運があるものの足並みが揃うかどうか。プレカット工場の稼働は 5 月 GW 明けから落ち込み始め、4 号特例改正による認可遅れの影響が出てきている。東京港の 5 月製品入荷は 16.5 千 m^3 と前月の 8.9 千 m^3 に比べ大きく増加。出荷は 13.5 千 m^3 と前月並み。在庫は 29.2 千 m^3 と反転し、2024 年 9 月から続いた減少局面はようやく終了した模様。

4. 北洋材

産地では 6 月の気候は良好で、夏山伐採が本格化している。日本向け製材生産はアカマツ良材不足のため減少。中国の引合いは低水準。ウズベキスタン等の国内需要は建築シーズンに入り更に活発化し、ルーブル高と相俟って輸出価格と競合し始めた。アカマツ完成品価格は\$575~585/ m^3 で上げ止まり。5 月の製品入荷（東京+川崎）は 25.5 千 m^3 と滞留コンテナが引き続き入荷したため増加。出荷は 11.7 千 m^3 と実需に迫力は窺えない。在庫は 48.2 千 m^3 に増加したが、一時的なものと冷静受け止められている。特定のサプライヤー、商社で在庫安値放出の噂が出ているが、他の商社の売り姿勢の影響は限定的と見られる。

5. 合板

東日本の合板メーカーではカラマツ原木が不足して生産に影響が出ており、西日本ではスギ原木が不足し、原木集荷に躍起になっている。国産合板は 6 月後半から荷動きが低調となり、西日本のメーカー中心に在庫が少しずつ増加傾向にあり、流通在庫にも行き渡っており、需給バランスはギリギリ保たれている状況が続いている。価格は継続して値上げとなり、西高東低と西日本が値上げを先行している。国内合板メーカーは引き続きの値上げを発表。5 月の国内合板生産量は 21.8 万 m^3 、うち針葉樹構造用合板は 19.6 万 m^3 、出荷量は 19.5 万 m^3 、在庫量は 14.4 万 m^3 で前月より 1,200 m^3 増加。輸入合板の荷動きは低調で、ラワン構造用など瞬間的に品薄になる品目があっても大きな騒ぎには至らない状況。5 月の合板輸入量は 16.9 万 m^3 （前年比 110.5%）とな

っている。インドネシア、マレーシアからの入荷が減少傾向にある。

6. 構造用集成材（国内産）

6月の弊社ラミナ入荷量は前月に比べ19.3%増加。在庫に不足感を感じられないものの、強含みのWWラミナなどには不足感がみられる。第3・四半期契約価格は€290～€300/m³程度。ユーロ単価は値上げとなり、為替も円安方向にあり、集成材価格に関してはかなりの値上げ圧力となっている。6月の受注状況は前年同月比およそ112%。長物や尺上の価格は強含み。原料高・製造コスト高の影響により価格は上げ相場である。7月以降の住宅着工推移は確認申請の関係でスポット的な需要増加が見込まれる。5月の構造用集成材の輸入量は小断面28,664 m³（前年同月比1.0%減）、中断面20,937 m³（同7.2%減）となっている。

7. 木材チップ（東海）

原木の入荷は、製紙・バイオマス発電用ともに例年並みで順調に推移している。燃料材は、震災廃棄物の流通量によりやく目途がついてきた模様。石川県外への搬出は大幅に減少しており、今後は県内処理が主体となる見込み。消費状況は製紙用では、洋紙・板紙とも製紙原料の減少傾向が続いている。また製紙大手で定修期間の延長が発生し、使用量はさらに減少している。燃料用は、原料用と同様に製紙大手での定修期間延長が発生したため、消費量が減少し余剰感が強まった。原料用・燃料用ともに在庫過多で推移している。

8. 市売問屋

都内では一戸建ての建築戸数が少ないため構造材の動きは良くない。郊外ではスギ、ヒノキの9.0cm角、10.5cm角の4mが不足と聞くが足りている。造作材ではスギが安いので売れているが、専門の材木店のみが扱っているので全体的には活気がない。外材は値段が高止まりのため売れる量が限られている。首都圏におけるスギ、ヒノキの製材品市売り価格は、概ね横ばいで推移している。

9. 小売

4号特例改正の影響のためか、大規模リフォームの物件が極端に減っている。国産材構造材の出荷先であるリフォームにまとまった物件がない状況で先行きの見通しは立っていない。外材構造材も同様である。国産材造作材は依然として建築用材の需要が少なく、その分非住宅や店舗向け内装材の納品が増えている。外材造作材は単価が高く、見積もりはあるものの結局国産材で決まることが多くなっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年7月22日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米 材	丸 太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↗	→	↗
北洋材	製材品	↘	→	↘

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

↑ 急増・急上昇
↗ 増加・上昇
→ 横ばい
↘ 減少・低下
↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内 製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸 太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→
			ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→
米 材	丸 太	産地価格	米マツ ISタイプ	↑
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイット ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1～3等	→
		京浜・オントラ	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 24×28栈木	→
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイット 集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150～360×3.985	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	〃	ホワイット集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150～360×3.985	↗
合 板	国 産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加